

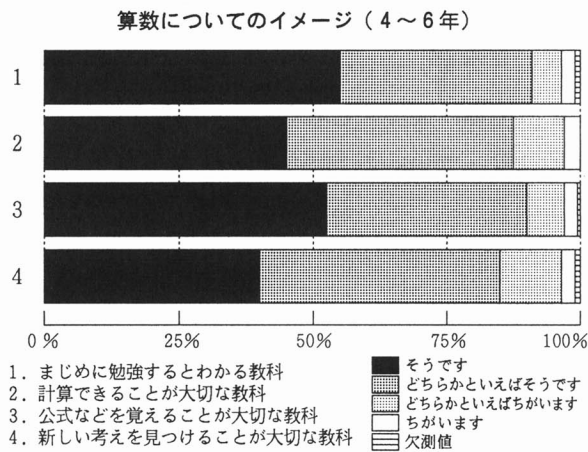
4 算数

小学校に入学したばかりの児童は、「はやく勉強が始まらないかなあ。」と心待ちにしている。学習への意欲がありありと見られ、算数の学習への期待も大きなものがある。しかし、学年が進むにつれて「算数嫌いがふえている」としばしば指摘されている。いったい何が問題なのだろうか。

ここでは、児童が算数の学習に対して、どんな意識を持ち、どのような学習行動をとっているのか、児童の側に立ち、探してみたい。

(1) 算数についてのイメージ

まじめに勉強するとわかる教科

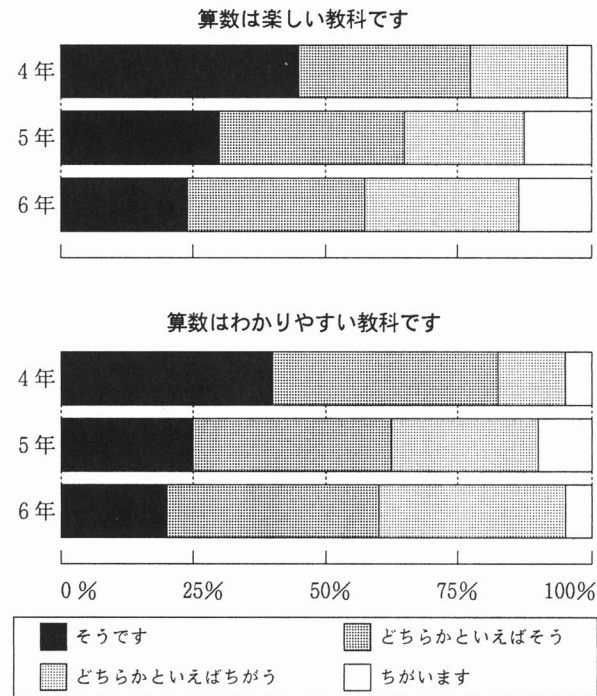


このグラフによると、児童は「まじめに勉強するとわかる教科」、「計算できることが大切な教科」など、算数学習について肯定的なイメージを持っている。「公式を覚えること」と「新しい考えを見つける」という2つのことは、矛盾したことのように思えるが、児童にとっても、同じように肯定的にとらえることができるものなのであろう。

算数は教材の系統性が重んじられている教科であり、学習内容が積み重なっていく教科である。

しかし、「楽しい教科」「わかりやすい教科」ということになると、全体として肯定的なとらえ

方であるにもかかわらず、学年を追うごとに否定的回答が増加していることは、気になる点であろう。6年生では、「どちらかといえば」という児童をふくめると、否定的な児童が44%にも達している。



このように、算数の学習が、高学年になるほど児童にとって、楽しく、わかりやすい教科ではなくなっていることが伺われる。

そこで、算数に対する好き嫌いの調査の中でその傾向と好き嫌いになる分節点、その理由について探ってみた。

(2) 算数の学習に対する好き嫌い

『算数が好き!』は約6割

